



JEMS Jiho 時報

日系人福音宣教協力会 第48巻 2016年クリスマス号

地の上では、み心にかなう人々に平和があるように ルカ書2章14節

主を喜びたたえるマリア

ベニス・フリーメソジスト教会

朴（パク）ヨンス師



長女の珠里さんと

今年には皆さんにとってどんな年だったのでしょうか。一年の最後、人生の最後を平和な心で締めくくることがとても大事なことです。

クリスマスにみどりごととしてこの世にお生まれになったイエスは、平和の主(Prince of Peace)です。みどりごイエスを心に迎えている人々には必ずその心に平安があります。平安・平和はキリスト者の印でもあります。決して苦しみと困難がないわけではありません。十字架があり、死があり、苦しみと辱めがあり、貧しさなどがありますが、心には平安があるのです。

私は高校生の時にイエスを信じました。ノックリスチャンの親しい友達にイエスが乙女マリアによつて生まれたことは嘘だ、信じられない、と言われる度に、心がいとも動揺してしまいました。しかしある日、神様は私にこのような確信を与えて下さいました。「宇宙万

物を造られた神様であれば、乙女マリアより生まれることは簡単なことだ。それも人々をびつくりさせた。驚かせたりするためではなく、全人類を救うために乙女マリアより生まれたのだ。」その時以来、私には平安が与えられました。

三年前に娘と一緒にアメリカを旅したことがあります。その時に、『愛する人を亡くした時に』という一冊の本に出会いました。著者は韓国人の女性で、著者のご主人はアメリカ人の牧師です。ある日突然ご主人が交通事故により亡くなり。あまりにもショックで奥様は何をどうすればよいか分かりませんでした。毎日悲しみのなかにいた彼女に神様はこう語りかけたそうです。「あなたは私より主人をもっと大事にしている。私は、あなたがすでに天国にいった愛する人を思いながら、いつも失望や落胆や悲しみのなかで人生を過ごすのを願っていない。あなたの主人はあなたの所有でもなく、あなたの子どもたちや教会の所有でもない。」その時に彼女は立ち上がる事ができ、イエスと共に歩み始めたのであります。彼女は今、アメリカの刑務所で服役をしている犯罪者の救いのために働いています。

私も四年前に、愛する妻を天に送りましたが、この本を読みながら、愛する妻は私の所有でもなく、娘の所有でもないと思つた時に心

に絶対的な平安が与えられました。みどりごイエスを心に受け入れる人々には必ず平安が与えられる。イエスは平和の君であり、平和の王である。ルカによる福音書一章四六節―四七節を見ると、「わがたましは主をあがめ、わが霊は、わが救い主なる神を喜びたたえます。」と、マリアは自分の体をとおしてイエスがお生まれになることを受け入れて、主を喜びたたえています。当時の社会情勢を考えると、処女が身ごもることは受け入れ難いどころか、命も危ないような大事件でした。しかし、マリアは心に平安が与えられ、メシアを喜びたたえています。マリアの賛美はただの歌ではありませんでした。マリアは身分の低い、はしためのような自分自身に目を留めてくださった主を褒めたたえています。真の賛美を捧げると謙虚さが与えられます。また自分自身の人生を神様に委ねるようになります。



クリスマス随想

クリスマス—そのよき日に

ブルーエット・ナオミ



主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょうか。ルカ一章四五節

マリヤは神の御子を宿すというお告げを天使ガブリエルから受けたとき、一体どんな思いだったのでしょうか。私が丁度日本の短大で幼児教育を学び始めた一年目、神様は「宣教師」という言葉を私の脳裏に焼き付け、三ヶ月後に、神様が私に海外宣教の召命をくださったことを認識しました。短大のクラスのおかげで、なぜかこの聖書の箇所が選ばれ、全員マリヤ役となって、このときマリヤの心境を演ずるという課題がありました。私がこの召命に心迫られていた時でした。私はこの宣教師というお役目を恐れおののきながら、戸惑いながら心にめぐらせていましたので、このマリヤ役はまさに私の心境だったのを覚えていません。十九歳でした。

私は伝道者の家庭に生まれ育ち、福音を語ることは日常茶飯事のようなどころがありました。私には私なりの夢があり、まさか日本を離れて、宣教師になるなど夢にも思っていませんでした。父は日本

の救霊のために生涯を捧げているラジオ牧師でしたので、私の召命を聞いて、母と共に心から喜んでくれました。「ナオミ、これがもし、自分の思いから出たことであるなら、無理なことだが、神様が本当に召してくださったのであるなら、神様ご自身が必ず成し遂げてくださるから、信じて従ってください。」と祈ってくれました。



ブルーエットご一家 右から2人目がナオミ師
ご主人ポール師 4人のお子さん達とお嫁さん

短大を卒業し、英語も全くできないまま、父の決断でアメリカのサウスカロライナ州にあるコロンビアバイブルカレッジに留学しました。初めて親元を離れた異文化の中、自分の無力さに、謙遜さを学ばせていただきました。それまでは父の名前の下で「羽鳥明の娘です」で通っていた自己紹介が通じないのが最初の戸惑いだったの

を覚えていきます。アメリカで初めて過ごしたクリスマスは、学校の友人が彼女の家庭に招待してください、バージニア州で過ごしました。私にとって初めて家族を離れたクリスマスでしたので、ホームシックになり、言葉もわからず、居心地がわるかったのを覚えています。あれからずっと、両親とクリスマスを過ごしていません。

中国宣教の重荷を与えられ、バイブルカレッジで出会った同じ召命を受けているアメリカ人と結婚して、自分たちなりの「クリスマスの伝統」を作ろうと思いました。しかし、この三十年間、台湾、中国、日本、英国と様々な文化の中で、中国人対象の宣教をしてきて、クリスマスは伝道の大切な奉仕の日となり、休暇というより、一番忙しい時季でありました。

イギリスで八年間、中国人留学生、学者を対象に宣教の働きをしていましたが、この期間に、娘が拒食症になり、自殺する決心までする程心の傷を負っていたことがわかりました。私たちは属している宣教団体からすぐアメリカに戻るよういわれました。大変なショックでした。忙しすぎて子供達をないがしろにしたのだろうかと思後悔もしました。しかし、神様の不思議な導きと憐れみにより、癒し、赦し、回復の道を体験することができました。苦しみを通して学ぶことがどんなに益と変えられ

ていくことか！私にとっては、どんなことがあっても、「主によって語られたことは必ず成し遂げられる」と信じられるかどうかのテストでした。何度も、もういい、ここまで頑張ったから、家族のためにただ休ませていけば十分と自分に言い聞かせていました。そんな中、クリスマスが働く日から、家族の楽しみの日が変わっていきました。クリスマスの本当の喜びを実感することができたのです。私達には四人の子供たちが与えられています。日本生まれの末っ子の息子は、アメリカで高校三年のときに、学校で銃撃事件があり、その影響で集中力に支障が起き、勉強ができなくなり、パニックアタックになり、鬱に悩まされました。再び私は、子供のために、宣教師としてではなく、母親としてやっていけばいい、と思い始めていました。しかし、神様ははつきりと初めの召命、ビジョンを再び思い起こさせて下さり、今度は中国人宣教師の養成をするように導いてくださっています。癒してくださるのは主。子供達を育ててくださるのも主。様々なチャレンジの中、あの召命を神様が必ず成し遂げてくださることを信じることでできるようになりました。

マリヤはイエス様が宣教を始めた時、「本当だ。この子は神の子だ」と思ったと(五ページ下段へ)

サンフランシスコから日本に来て五年、時の経つのは本当に早いものです。私はJEMSの宣教師という方より「宣教師の妻」という方がふさわしいかと思えます。というのも、自分に示されていることは主人の手助けをすることと心底思いつつ、実は心はなかなか伴わず、ここまで長い神様との戦いがありました。

アメリカに住んでいた時は会社勤めをしていましたので、時間の許す範囲で主人の学生伝道に携わっていました。日本に来て一年後、ジェイロτζというコーヒーショップでの働きに導かれたのですが、これは本当に神様のご計画でした。しかし、それは自分が苦手とする接客業で、しかもフルタイムで宣教活動を行うものでした。



ジェイロτζは神奈川県平塚市にある東海大学から、徒歩数分のところにあります。ドリンク一杯で何時間も過ごしていく常連学生も多いのですが、その誰もが話しかけて来てくれるように思います。キッチンの前のカウンター席に座り、明らかに話をしたいが、

話しかけられないという様子の学生もいます。話すことが得意でない私にとっては、チャレンジな場所でもあります。何故神様はそんな自分をここに遣わすのかと問うのですが、自分の力ではなく神様に頼るといふことをまさに教えら



ジェイロτζ 10周年 写真中央が裕香さん

れています。またたくさんの方々。私達のために祈ってください、それによって日々支えられていることを感じています。「心を尽くして主に頼め。自分の悟りにたよるな。あなたが行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」

箴言三章五、六節

二十代の頃は、何かに不自由していたわけではありませんが、心は満たされず、答えを模索し、異端に巻き込まれそうになったこともありました。そんなある時、自分では修復できない問題に直面しました。その時初めて自分の無力さを実感しました。平安は完全に失われ、自暴自棄になり、心の痛みから逃れることばかり考えていました。どうしていいかわからない中、家の近くの教会を訪ね、その後都内の教会に導かれました。初めて牧師先生とお話した時、先生は私がイエス様を受け入れたと思われたのです。しかしその時はどうでもいいという心理状態だったので、否定する気力もなく、キリスト教が何だかわからないけれど嫌だったら辞めればいいという気持ちで聖書を学び始めました。後で考えれば、それくらい押しがなければ前に進めず、またこれも神様の計画であったと思います。その時抱えていた問題は自分の望むように解決されたわけではありませんが、ずっと探していた心の満たしを得ることができたのです。

す人がいない、心が病んでいる、満たされない・・・そんな人達がたくさん多いことでしょうか。だから私達にとって神様がどれだけ必要かを実感するのです。「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝を持ってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってくれます。」ピリピ人への手紙四章六、七節

学校、家庭環境、友人関係、就職、将来・ジェイロτζでの学生との話題は様々です。彼らに私ができることは、そのままの彼らを受け入れ、話に耳を傾けることです。たとえ今彼らが神様を信じなくても、何かを感じ、社会に出て、また家庭を持っていく中でジェイロτζを思い出し、神様に出会っていたことに気づいてくれることを信じ、祈り続けます。

毎年ジェイロτζでクリスマスコンサートを行ってきましたが、今年は広い場所を借りて、様々なミュージシャンを招き、イエス様の誕生について話をする予定です。たくさんの方が訪れ、クリスマスの本当の意味を知ってほしい。お祈り頂ければ感謝です。

OPEN GATE

主に二十代後半から三十代前半の六人の青年たちの賛美チーム、四人は北海道、福岡、名古屋、沖縄で牧師としてまたワーシップリーダーとして神様に仕え、二人は演奏家として活躍。リーダーの長沢崇史師は、多くのワーシップソングを作り、世界中で歌われている。全国四十七都道府県を巡回し、教会だけでなく、ライブハウス、喫茶店、路上、学校、病院などあらゆる所でイベントや集会を開き福音を伝えていく。教団、教派を超え、また世代を超えて、音楽を通して日本人に霊的覚醒を起こしている。長沢師のコンサートのDVDを観た者が、LAの地での開催を祈り、神様のみ業によって今回のツアーが実現した。最新のCD「主の栄光の中」を販売中。

<http://taka-worship.com/>

LINKLA (りんくら)

OPEN GATEは、今回、テキサスとロサンゼルスでツアーを行った。十月十八日から二十三日のロサンゼルスツアー実行委員会として有志が集まり発足した。神様と人々を、人々と人々をLAで、また南カリフォルニアでつなげるという思いが込められている。

今回、実行委員のメンバーとして長沢崇史先生率いるOPEN GATEのツアーに関わらせてい

ただき本当に感謝でした。私達LINKLAのメンバーを通して、このロサンゼルスに与えられたビジョンがOPEN GATEとして形になったことは本当に奇跡としか言いようがありません。神様が私と長沢先生に同時に働かれ、「長沢先生をLAにお呼びしたい」アメリカで集会を開いて現地の日本人を励ましたい」という

OPEN GATE
LA CONCERT TOUR

左から 池原仰一師、山川高平師、西田勇兄、長沢崇史師、中山有太師、中山告兄

LINKLA 前田雅史

ら、財力や経験や人脈を使ってこのビジョンを遂行していったことでしょう。ただ神様に委ねて従っていくしか方法はありませんでした。友人が祈ってくれた言葉が今も心から離れません。「これは神様、あなたの戦いです。どんなことが起ころうとも、結果の責任は神様、すべてあなたにあります。」

長沢先生からメールが届き、すぐに二人の友人に協力を依頼し、

他の友人も加わり、二月四日には六人のメンバーがLINKLAに与えられました。即席実行委員でしたが、今回の企画を進めていくうえで各メンバーが必要な知恵や能力を備えていることが後で判明しました。背後に神様が働いてくださった事を確信しています。また

多くの方の祈りと献金に支えられ、約八カ月の準備を経て、ツアー初日を迎えることができました。長沢先生は移動の車中で「自分達は主の御顔を求め続ける真の礼拝者をこのロサンゼルスに起こしたいと願っている。今回の集会がお祭りでは終わるのではなく、主を心から賛美し主を心から求める人たちが集う集会がロサンゼルスに起る所である。今回のツアーがそのきっかけになることを望んでいる。」と言われていました。

また、集会の冒頭で長沢先生は会衆に、「私達は皆様と共に主を賛美し礼拝するために来ました。ただ主だけを見上げて賛美を捧げる、それを導くのが私たちの役目です。」と語られていました。

六日間のツアーは、毎日違う集会で集会が持たれました。一度でも今回の集会に参加された方は、これまでのコンサート形式の賛美集会とは全く違った体験をされたことと思います。賛美、メッセーの心が一体となり、まさに福音クルセードの宣教大会でした。

今回のOPEN GATEのツアーにおいて、神様はこのロサンゼルスで確実に働かれました。参加されたお一人お一人が神様からのメッセージをそれぞれ受け取り、これから神様とどのように向き合っていくのかを問われていることでしょう。神様が今回のツアーを通じて、これからのロサンゼルスをごのように導いていかれるのか、大いに期待し祈っていきたく思います。LINKLAの働きについても引き続きよろしくお願ひします。

最後に、今回のツアーの為に祈り、ご協力くださった方々、場所を提供してくださった各教会の牧師先生方、また各集会でのご奉仕者たち、沢山の方々に心から感謝します。

(アンカー・サウスバイ教会



双方の思いが実を結んだのでした。なぜ私に神様が働かれたのか本当に不思議です。財力がある訳でもなく、大きな集会を企画した経験がある訳でもなく、豊富な人脈がある訳でもない私です。最近その答えが見つかりました。それは、私が何も出来ない人間だからです。もし私が秀でたものを持っていた

第 67 回 JEMS マウント・ハーモン修養会

2017 年 7 月 2 日 (日) - 8 日 (土)

【日語部講師：福野正和牧師】

1947 年、大阪府堺市に生まれる。18 歳の時、堺福音教会にて救われる。1970 年献身、関西聖書学院 (KBI) に入学。堺福音教会副牧師として就任。ハワイ YWAM の D I S (弟子訓練学校) と S O E (伝道学校) で伝道訓練を受ける。1981 年、堺福音教会の「生み出す教会」ビジョン第一号として大阪府富田林市で家庭礼拝を始める。1982 年、「南大阪チャペル」として 5 名で開拓伝道開始。1986 年、「南大阪福音教会」を教会員 39 名で設立。2000 年、「RCI 南大阪福音教会」に改称。2012 年、みことばと聖霊の働きの教えのために CPM 「聖霊学校」を開校。今年 11 月、教会設立 30 周年を迎え、現在教会員数 300 余名。3 つのブランチ教会と各地の「みことばの家」(17ヶ所)で中継や DVD で同時礼拝。カナダとアフリカ・タンザニアへ宣教師を派遣。「一步一步」をモットーに、自然体に、ありのままに主に仕えることを大切にしている。



家族：梢夫人、一男二女、7 名の孫。長男・貴嗣師は、本年 11 月より RCI 南大阪福音教会牧師の 1 人として任職。

R C I (リバイバルチャーチ・インターナショナル) 南大阪福音教会主任牧師 / C P M (クリスチャン・パワー・ミニストリーズ) 主幹 / JEC 理事、関西聖書学院 (KBI) 教師・理事長

遺稿

ワシントン日本人キリスト教会

上原隆師



上原牧師は、二〇一六年十一月二十日(日)早朝、一年半に渡る悪性リンパ腫との闘病後、天に召されました。七十四歳でした。上原師は、神戸改革派神学校及び米国ウエストミンスター神学校を卒業。ペンシルバニア州、ニュージャージー州で伝道。一九八六年から三十年間ワシントン日本人キリスト教会で牧師として仕えられました。メモリアルサービスは二月の予定。百合子夫人をはじめ、ご家族の上主からの慰めをお祈りいたします。十一月六日、ワシントン日本人キリスト教会 (W J C C) は、創立三十周年記念礼拝を持ち、教会記念文集を発行。

上原師の「三十年を振り返って」という寄稿文の一部をここに紹介いたします。

W J C C は、二つの小さな群れが、神様の不思議な導きにより合同することによって出発しました。一つは一九八五年二月に元メノナイト教会宣教師リー・カーネギー師夫妻、中垣恒彦・本田路津子夫妻と数人の信徒によってバージニア州アーリントンで始められた集会。もう一つは一九八五年五月、アメリカ長老教会支援の下、メリランド州シルバー・スプリングで北ワシントン聖書集会として私達夫婦を中心に開始された集会です。この二つのグループは、一九八六年十一月二日、晩秋の紅葉がまだその美しさを残している好天の日、喜びと希望をもって一つの群れとなりました。

会員の絶えず流動する教会の状況を考えるとき、過去三十年は神様の恵みの歴史でした。私達の教会の働きは、日本の教派を超えた多くの教会と信徒の皆さん、特に当時から日本に帰った信仰の仲間たちの熱心な祈りと支援があったことを、もう一度思い起こし、心から感謝するものです。

また、長年の祈りに応えて、私の後継者として片岡継先生という若い有能な牧師を備えて下さいました。間もなく片岡先生をお迎えします。リー・カーネギー先生と私から、片岡先生へと受け継がれる W J C C の働きが、首都ワシントンを中心に中東部の邦人伝道のために用いられる教会となるように心から祈るものです。

【感謝】今年はいく回、時報をお届けすることができました。寄稿して下さった牧師先生方、兄弟姉妹方、發送奉仕者の方々、言葉に尽きせぬ感謝の思いで一杯です。そして時報を読んで下さる皆様、有難うございます。クリスマス夜の空に光る星を皆さまの心深くにお届けしたいと願ひ祈ります。

三奈子・黎子

(二ページから続く) 思います。しかし、逮捕され、鞭打たれ、十字架を背負っている姿を見たときにはどんな思いだったでしょうか。様々な思いに心が揺り動かされたことでしょう。そして復活。蘇りのイエス様を見たとき、マリヤの心の中にどんなに大きな励ましと喜びが与えられたことでしょうか。人生の様々な困難、思いがけない苦難に出会うとき、宣教師の召命を受けた私に、父が言った言葉がはつきりと心に蘇ります。

父は九十六歳になりました。十六歳のときにイギリス人の宣教師に導かれ、信仰をもちました。その宣教師にアメリカに送っていただけ、フラー神学校で学んだ後、日本の救霊のために J E M S の最初の宣教師として日本に遣わされ、ラジオ伝道に六十年近く用いられました。日本のリバイバルを信じ、待ち望み、私達に宣教のバトンを渡しました。

このクリスマスも父と母と一緒に過ごせませんが、このクリスマスに福音をしっかりと受け継いだ四人の子達が、それぞれの形で父がしてきたとおりに、クリスマスを伝道の機会とし、また家族の喜びの日として、また父にあっては一番嬉しいことなのだろうと思います。彼らに私達からの福音のバトンを受け継いでもらいたいと思わされています。

JEMS ADMINISTRATION

Rev. Dr. Richard Chuman -
Executive Director & Minister at
Large
Daichi Tsuruta-Senior Accountant
Barrett Louie-Accounting Assistant
Darryl Wong-Missions Administrator
Mary Tabuchi-Office Administrator

JEMS BOARD OF DIRECTORS

David Akiyama-President
Joel Nagatoshi-Vice President
Larry Kuromiya-Treasurer
Don Yamagishi-Secretary
Ann Kuromiya-Recording Secretary
Members at Large:
Tony Kim
Greg Oda

JAPAN MISSIONS

Rev. Dr. Richard Chuman-Interim
Director
Amakusa Shinsetsu Ministry
Hope for Japan (JEMS)

JAPAN MISSIONARIES

Tim & Chie Burns-Nagoya
Ethan & Michele Fisher-Gifu
Todd & Jayne Fong-Tokyo, CAJ
Gayle Gutierrez-Machida, Fall 2016
Paul & Yu Kang-Nagoya
Revs. Michael & Chris Mason-Osaka
David & Yuka Mills-Kanagawa,
J-Lodge

Paul & Rie Mizuki
Mitsuyoshi & Kristin
Nakamura-Nagoya
Julie Nitao

Kuni & Kristen Onishi-Kobe
David & Tomo Robison-Tohoku
Jon & Maki Robison-Tohoku
Lily Suzuki-Amakusa
Roy & Nancy Toma-Iwakuni
John & Kazumi VanFarowe-Tajimi
Nozomi & Kevin West-Kobe
Fred & Chikako Whitwer-Tohoku
Joseph & Yumiko Wu-Kobe
Reo Yoshida-Kobe

SOUTH AMERICA MISSIONS

Rev. John Kataqi-Director

JAPAN AFFILIATES

Rev. Paul Ariga-All Japan Revival Mission
Mark & Jennifer Bello-
Suicide Is a Lie, There Is Hope-Tokyo
Rev. Megumi Enomoto-Shiga
Jordan Foxwell-Ishinomaki Christian Center
Nozomi Houlette-Nozomi Project
Nao & Barbara Hanada-Director of AiGJ
Rev. Timothy Himei-Soden, JEMS Japan Coord.
Moto Kimura & Jo Nakamura-OneMusic
Rev. Yoshihiro Kishi-Mission 2001, Music
Hideo Kobori-Kyoto, Music
Rev. Masashi Sugita-Dublin, Ohio
Rev. Tadao Ogawa-Social Worker
Temote Suzuki-Tohoku

DIASPORA MINISTRY

Eri Kobayashi (SoCal)
Rev. Dennis Peters (NorCal)
Akiko Sugimori (SoCal)

US AFFILIATES

Rev. Chandler
Im-Tokyo Waseda Int. Christian School
Ray Sidney, Amy Lachica, -Here to Praise Ministries
Dr. Martin Yahiro-JUMP-Japan Upward Mission Project
Ms. Nana Yamamoto-USA Evangelism
Dr. Patrick Zukeran- Christian Apologetics

AACF CAMPUS MINISTRIES OF JEMS

Jon Liu-AACF Director

AACF ADVISORY COMMITTEE

Warren Hino-Chair, Bruce Chow, David Fo
Rev. Kevin Hayashida, Larry Kuromiya,
Don Yamagishi

AACF CAMPUS MINISTERS

Chong Ahn, Rev. Melanie Mar Chow, Davi
Chen Fong, Arnie Ong, Rev. Victor Quon

AACF CAMPUS MINISTERS (Volunteers)

Betty, Bruce Chow, Ashley Donald,
Evelyn Fan Encarnacion, Nathan Fong,
Helicon Kuan, Ed Kwong, Adrian Li, Mark
Quan,
Johannah Rosario, Cathy Wu,

MOUNT HERMON FAMILY CAMP

Craig Wakamoto-Director
Lisa Naahori-Registrar

MOUNT HERMON YOUTH CAMPS

Lisa Nagahori-Cordinator

MUSIC AND MEDIA

Lowell E. Sue-Director

NICHIGO MINISTRIES

Minako Fujimoto-US Coordinator
Rev. Dr. Ryohei Kawano -
Overseas Church Consultant

PACIFIC NORTHWEST

(STATE OF WASHINGTON)
Rev. Carolyn Y. Shimabukuro -
PNW Director &
AACF Regional Director

SENIORS & MEN 4 MISSIONS

Rev. Dr. Sam Tonomura- Director

SPORTS AND RECREATION

John Lee-Director

JEMS JOURNAL

Emily Okada-Layout & Graphics
Keyline Lithography -Printing

**JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY
REQUESTED**

948 East Second Street
Los Angeles, CA 90012-4317
213.613.0022, 213.613.0211 FAX
E-Mail: info@jems.org www.jems.org



Merry Christmas & A Happy New Year

**RETURN SERVICE**

NON PROFIT
Auto
US POSTAGE
PAID
Los Angeles, CA
Permit #21877

第4回“Stand” Women’s Conference

人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。
(ルカ 19:10)

日時: 2017年2月25日(土) 10:00AM-3:00PM

場所: ウィンターズバーグ長老教会

2000 Fairview, Santa Ana CA 92706

講師: 服部雄一 狭山心理研究所主宰及びみどり夫人

お問い合わせ: JEMS (213) 613-0022 藤本まで

Stand Women’s Ministry USA 主催 JEMS 協賛

目次

- P 1 : 主を喜びたたえるマリア 朴ヨンス師
P 2 : クリスマス随想 ブルーエットナオミ師
P 3 : 私が遣わされた場所 ミルズ裕香師
P 4 : OPEN GATE LA CONCERT TOUR 前田雅史兄
P 5 : 遺稿ワシントン日本人キリスト教会 上原隆師
2017年マウント・ハーモン修養会日語部講師紹介
福野正和師
感謝 藤本三奈子/西原黎子

from JEMS